

78 ラクナ梗塞例において点状ヘモジデリン沈着は脳出血発症の予想因子と考えられる。

今泉 俊雄・堀田 祥史・橋本 祐治
丹羽 潤

市立函館病院脳神経外科

【目的】 T2-weighted MRI (T2WI) 上の点状低信号は、無症候性出血 (dot-like hemo-siderin spot: dotHS) と考えられ、脳出血やラクナ梗塞の原因となる microangiopathy と関連する。ラクナ梗塞例において dotHS と過去のラクナ梗塞、脳出血との関連につき検討を行った。

【方法】 連続して来院した症候性ラクナ梗塞 147 例に T2WI を行い、症候性脳出血またはラクナ梗塞の既往の有無にて 2 群に分け、種々の因子 (dotHS の数 ≥ 5 , 年齢, 性別, 無症候性ラクナ梗塞, 無症候性脳出血, コレステロール, 高血圧, 糖尿病, 喫煙, アルコール) につきそれぞれ multiple logistic regression analysis を用い検討した。

【結果】 脳出血の既往は 10 例にみられ, dotHS 数 ≥ 5 のみが独立して有意に関連した (OR, 12.2; 95% CI; 1.92-78.1, $p = 0.0080$)。ラクナ梗塞の既往は 24 例にみられ, 無症候性ラクナ梗塞と独立して有意に関連したが (OR, 5.99; 95% CI; 1.55-23.1, $p = 0.0094$)。dotHS 数 ≥ 5 とは関連しなかった。

【総括】 ラクナ梗塞症例において dotHS 数 ≥ 5 は脳出血発症の危険因子と考えられ, ラクナ梗塞の治療に際し dotHS を観察することは治療を行なう上で重要である。

79 クモ膜下出血後二次性水頭症の発症機序とヘモジデリン沈着についての一考察

堀田 祥史・今泉 俊雄・橋本 祐治
丹羽 潤

市立函館病院脳神経外科

【目的】 慢性期の出血 (ヘモジデリン) は MRI T2 < SUP > * < /SUP > 強調画像で低信号域として描出される。我々の検討では、脳動脈瘤破裂によるクモ膜下出血 (SAH) 例において、クモ膜下腔に広範囲なヘモジデリン沈着を認めた例のみ

が二次性水頭症を発症しており、この機序について考察した。

【方法】 脳動脈瘤破裂による SAH 例で clipping またはコイル塞栓術を行った後、二次性水頭症を呈した連続 3 症例に対して、慢性期に T2 < SUP > * < /SUP > 強調画像とメトリザマイド脳槽造影を行い、ヘモジデリンの沈着部位と、造影剤の入り込まない部位について比較・検討した。

【結果】 T2 < SUP > * < /SUP > 強調画像とメトリザマイド脳槽造影の所見を比較したところ、T2 < SUP > * < /SUP > 強調画像での低信号域と造影剤の流入の弱い部位はほぼ一致していた。

【総括】 組織学的に SAH 後のクモ膜下腔の肉芽形成部位では、ヘモジデリン沈着が認められており、この部分では髄液の流れが低下していることを予想し検討を行った。今回の結果は予想に一致したものであり、T2 < SUP > * < /SUP > 強調画像で示されるクモ膜下腔のヘモジデリン沈着部位では髄液の流れが低下しており、広範囲にヘモジデリン沈着があれば、髄液の流れの低下が起こり、二次性水頭症を引き起こすと考えられた。T2 < SUP > * < /SUP > 強調画像でヘモジデリン沈着を観察することで、二次性水頭症の発症を予測できる可能性があると思われる。

80 劇的な臨床経過及び MRI 所見を呈した HELLP 症候群の一例

椎名 巖造・松本 乾児・石井 清*
渡辺病院脳神経外科
仙台市立病院放射線科*

急激に進行する視力障害で来院した妊娠 7 ヶ月の高血圧性脳症の患者さんで、入院後間もなく痙攣 (子癇) に伴い早産し、児は蘇生術を施行後に NICU に転院搬送となった。来院時 MRI で後頭葉をはじめとした広範な HSI (posterior leukoencephalopathy) を示し、血液検査所見で溶血、肝酵素の上昇、血小板減少がみられたが、早産後の臨床症状の改善に並行して、劇的な変化がみられた。

以上の経過より、妊娠中毒症に伴った高血圧性